

TOMINAGA 株式会社トミナガ

TEL.03-3806-1321 FAX.03-3806-1984

URL <https://www.tomi.co.jp>



富永 護  
代表取締役

代表者：代表取締役 富永 護  
所在地：〒116-0014 荒川区東日暮里3-1-12  
資本金：1,000万円  
従業員：45人

創業年：昭和39年  
業種：印刷関連業  
事業内容：オフセット印刷(UV・厚紙)、  
オンデマンド印刷、UVインクジェット、  
レーザー加工

東日本大震災時の苦い体験が新事業につながる

昭和39年に写真凸版製版工場として発足した。以来、製版事業で培った色再現技術を基盤に、DTP(デスクトッププリプレス=パソコンを使った製版)、オフセットカラーUV印刷(紫外線照射で硬化するUVインク使用の印刷)、オンデマンド印刷、UVインクジェット印刷などを次々と手がけて今日に至る。



工場外観

「東日本大震災の発生の3月は当社の書き入れ時にもかかわらず、地震後は仕事がぱたっと止まってしまい、しばらくは本当に大変だった」。2代目の富永護代表取締役はあの平成23年をそう振り返る。大震災時の苦い経験から、従来の紙媒体への印刷事業のほかに、もう一つの柱となる事業が必要だと判断した。

富永社長が新たに踏み出したのが、キャラクターグッズ事業である。この新事業では、UVプリンターやレーザー



キャラクターグッズ事業の印刷機

加工機を駆使して、アクリル板などに印刷→形状カッティング→袋詰めの一貫生産により、アニメ人気キャラクターのアクリル製3次元グッズなどを製造する。

新事業を立ち上げて丸11年が経過した。その間にUVプリンターもレーザー加工機も当初の5倍に増設し、生産方法を見直すことで、当初は3,000個作るのに1か月を要したが、今では1日ででき、売上も10倍以上に増えたという。令和3年10月に手狭となった専用工場も移設した。「おかげさまで、本業の紙媒体の印刷事業と新規のキャラクターグッズ事業のどちらも順調に推移している。令和2年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で赤字を覚悟したが、下期にキャラクターグッズ事業がこれまでにない売上増となり、何とか総合で黒字になった。キャラクターグッズ事業はその後も年々売上が伸び、外注に任せる仕事も増えている。」と、富永社長は笑顔で近況を語る。社長の先見の明により、2つの事業がバランスの取れた企業経営に直結している。

◎主な保有設備

- 通常印刷部門
  - ・プリプレス：MAC編集機、自動検版機
  - ・印刷：菊版半裁判UV5色機、同UV4色機、同油性4色機2台、オンデマンド印刷機、自動インク計量機
  - ・製本：断裁機、6羽根BZ折機、自動計数機、筋押し機、角丸裁断機、カッティングプロッタ1台
- キャラクターグッズ部門
  - ・フラットベットUVインクジェットプリンター 5台、
  - ・レーザー加工機5台 ・ガーメントプリンター 2台

“うるさい注文”をこなし、リピーターをつくる

紙媒体への印刷事業は、デジタル化や紙離れが逆風となり、多くの同業他社が廃業を余儀なくされているのに、当社が順調な理由は何か…。富永社長は「うるさい注文」にもぎっちり対応することが評価され、仕事を依頼いただく。顧客の大半が何度も注文いただく常連客で、これは高評価の証し」と分析する。うるさい注文とは、厳密な色遣いが要求される販売用の印刷物など。当社では、生産性は落ちてでも品質を重視し、微妙な色の確認等検品は必ず人の目で行っている。また、中には「発注が今日で納品が明日」という超短納期の依頼もあるが、それらの注文にも対応。都内自社工場に構築した編集→印刷→調整の一貫生産体制により、難度の高い仕事をこなし、常連客を増やし続けている。



UVオフセット5色機

多様な市場の印刷需要に応えるため、令和4年に、デジタル時代にふさわしい1億円超の最新のオフセット印刷機を導入し、更なる高品質化と生産性の向上を図った。それが功を奏し、令和5年の売上拡大につながり、以降も売上を伸ばしている。

最初の東京五輪の開催年、昭和39年(1964年)に立ち上がった当社は、山あり谷ありの半世紀余りを乗り越えて、令和3年に2度目の東京五輪を迎えた。富永社長は「社員のみんなが長く働ける会社であることが第一で、そのために安定して利益を出し続けることが必要」と、思いを語る。常に市場を読み、業界にどのような波が来そうかを逐次つかみ、その対応への努力も欠かしていない。

2本柱を確立し、安定収益の基礎を築いた。富永社長は「令和6年1月には創立60周年を迎えた。今後は、100年企業を目指して次の世代に承継する準備を進めたい。」と常に先々を見据えている。

顧客の満足を表現する



『好品質(Love Quality)、短納期(Quick Delivery)、都内工場(Tokyo Factory)』が当社の強みだと捉えている。品質が高いだけの高品質ではなく、顧客それぞれの要求にぴったりフィットするのが「好品質」。印刷とは何かについて、単に情報を紙に載せるというより、「顧客の満足を紙メディアに表現するもの」と捉え、そうした観点から打ち出したのが好品質だ。スピードを求める顧客には短納期で応えるのも好品質につながる。

都内に立地する自社工場での一貫生産や近隣の印刷/製本会社との協力・連携により、顧客の「すぐ欲しい」の要望にぎっちり対応できていると自負している。